

や

やるぞ～

ま

まけないぞ～

が

がんばろうぜ～

た

楽しい学校になるように

めでたし 芽でたし！

令和4年が幕を開けました。皆さん「新年あけましておめでとうございます」。今「おめでとう」と挨拶しました。以前、「ありがとう100回」という話をしましたが、今日は、「おめでとう」について話をしたいと思います。

さて、お正月には、誰もが「あけましておめでとうございます」と挨拶を交わします。でも、一生涯の中で、「おめでとう」は、「ありがとう」ほど頻繁には使用しないような気がします。でも、ここぞという大事な場面で使っているのは間違いありませんから、「おめでとう」は稀少価値の高い言葉だとの予想はつきます。

「めでたい」の語源は、「愛(め)づ」＋「甚(いた)し」と言われています。「愛づ」とは、〈誉める〉〈讃える〉〈慈しむ〉ということ。「甚し」とは、〈はなはだしい〉〈大いに〉〈とっても〉ということです。

ということはつまり、「めでたい」は〈大いに讃えるべき〉という意味です。

「珍しい」の語源も「愛(め)づらしい」ということから、〈好ましくてもっと見ていたい〉とう意味があります。「め(愛)でたい」と「め(愛)ずらしい」には共通の要素があります。なるほど「めでたい」ことなんか、そうそう頻繁にあるはずがない「めずらしいこと」だということも理解できます。

ですから、この「めでたい」という字は、当て字で、「愛でたい」と使われることがあります。

何を大いに讃えているのか？私は、自分自身の人生そのものにだと考えます。自分の生き様に「Very Wonderful」と言っているようなものです。

生きている限り、私たち誰しも、嬉しいことも、楽しいことも、悲しいことも、つらいこともたくさんあるはずで、そんな自分の良いところも悪いところも、ありのまま自分の成長の糧と受け止めて、自分の人生を「愛でる」、つまり「大いに讃える」、そういう意味がこの「おめでとう」には込められているのだと思うのです。

また、「めでたい」は、「芽出たい」との説もあります。字のごとく「芽」は木の芽、草の芽のことです。冬至から春に向かって次第に暖かくなるにつれ、草木は新しい芽を出そうとします。人間に例えれば、満を持して新しい環境や新しい状況を迎え入れ、気持ちを新たにすることだと思えます。

「愛でたい」は、これまでの全てを受け入れ、自分を讃えながら前を見て生きようという思い。「芽出たい」は、これから成長する姿を心待ちにして夢見ている気持ち。ともに明るい未来志向の気持ちが込められているのです。

新年の「明けましておめでとう」に始まり、これから続く三ヶ月は、学校生活でも「おめでとう」という言葉が交わされる機会が多くなります。「卒業おめでとう」「合格おめでとう」、「進級おめでとう」「進学おめでとう」等々。

それだけ重要な時期であると言えます。だからこそ、ものごとの結果や実績を云々して一喜一憂することよりも、逆説的に、その後続く新たな人生のスタートを皆で讃えられたための結果や実績を残すには、今自分は具体的にどうあるべきかということ考えた生き方をしたいものです。

今年一年が、皆さんにとって、「愛でたし芽でたし」の明るい未来となることを心から祈っています。3年生は、卒業式前で43日。2年生・1年生は、進級まで67日となりました。令和4年を迎え、新たな自分の成長のため、一日一日を大切にしながら、残り3ヶ月の令和3年度を締めくくりましょう。

あらためて互いに、ここ一番の「おめでとう」と言えるその日まで。